



『エンジョイ ロータリー』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

TOKYO ROPPONGI ROTARY CLUB

WEEKLY REPORT

東京六本木ロータリークラブ



『夢をかたちに』

～Make Dreams Real～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年12月8日

No. 17

平成20年11月17日

卓話 『気高き日本創造に向けた日本JCの今年度の活動について』

社団法人 日本青年会議所

会頭 小田 與之彦 様

皆さんこんにちは。今日は、日本の若者はどういうことを考え、何をやってきたのかご報告したいと思います。JCは1951年にできてから明るい豊かな社会を築こうという合言葉のもと、国を良くしよう、誇りが持てる国にしよう、子どもたちが希望が持てる国にしようと活動してまいりました。私はJCの最終的な目的は「社会と人間の開発」に尽くると信じています。社会を開発する事業を計画、実行、検証する過程を通じて人間性を高め、社会に役立つ人間を作るのが第一の目的です。会員は90年代初頭は67,000人ぐらいいたんですが、厳しい経済状況が続いて4万人まで減っています。ですからメンバー一人ひとりのレベルアップとともに会員の拡大をしていかなければいけない状況です。日本青年会議所は毎年1月1日から12月31日までが会頭の任期です。私は今年「気高き日本」を作っていました。

日本JCは711のロム会員、会議所でできておりまして、私は大きく分けて3つの役割があると考えています。1つは日本という国がどうあるべきかを会員が議論し、国内に提案していくこと。もう1つが国際のこと。そしてもう一つは地域の青年会議所が誇りを持って活動できるよう支援することです。倫理道徳教育プログラムは、2005年に愛・地球博が行われたとき、物を粗末にしない、おじいちゃんおばあちゃんを大切にしよう、先人の言うことは聞こうといったことを伝えるDVDを作って上映したんですが、それを使って子どもたちに倫理を教える運動を全国176箇所でいたしました。それと日本が自虐史観が強くて国を誇りに思わない人が多いんじゃないかということで、この国の良い部分を伝えるビデオ「誇り」を一昨年作り、それを全国77箇所でさ

せていただきました。また環境についても3つのアクションプランを募って、チームマイナス6%ということでお月間1,000km車で走る家庭があったら、そのうち60kmは自転車で行きましょうという運動、月に1~2回蠟燭の火で生活して環境の大切さを家族で共有しようという「月蛍」、マイ箸など恒久的に使えるものをJCメンバーが率先して使う大人の背中運動を提案しました。もう一つ、憲法改正に向けたタウンミーティングを全国60箇所で開催しました。これは是非対立軸をもってやろうということで、社会党や共産党の国會議員の人にも来ていただいて、なぜ9条は変えなきゃいけないのか、なぜ守らなければいけないのか、基本的人権について書かれた第3章も、自由と権利という言葉は23箇所あるのに義務とか責任という言葉は3回しか出てこないことが、今、行き過ぎた利己主義につながっているのではないかといったことも議論しました。

麻生総理大臣は今から30年前の会頭です。そのときの麻生さんの言葉を紹介させていただきます。「もし青年と呼ばれたいなら自分の理想の現実化に悩むべきであり、安易な妥協に流されるべきではない。青年が既存の秩序に封じ込められ、平凡かつ惰性に満ちた生活を望むことは、日本にとって大きな病根になると自戒しなければならない。」30年経った今も青年会議所の考えは変わっていないと思いますし、これからも取り組んでまいりたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

